

江戸・東京再発見、感動！川船の旅

日比谷同友会サービス委員会 青野 信雄

10月5日（土）、DANの会（シニアを対象とした会員組織）と共催した「川船の旅」は、小雨の降る少し肌寒い生憎の天候でしたが、日比谷同友会19名、DANの会18名の合計37名もの参加をいただき、2時間30分の「川船の旅」を楽しみました。

神田川沿いにある浅草橋の屋形船「三浦屋」へ集合。乗船する船は、昨年秋に完成した清潔・快適で雨の心配がいない屋根付であったため、皆さんが一安心している中、2名のベテランガイドさんの案内で10時に出港しました。



最初のルートは、神田川を西方面に上り、酒井左衛門尉の屋敷があった「左衛門橋」、三つの倉があった「美倉橋」などを経て、赤レンガの旧交通博物館が見える「万世橋」、将軍綱吉の昌平坂学問所に因んだ「昌平橋」、湯島聖堂とニコライ堂を結ぶ「聖橋」、仙台堀のある「お茶の水橋」、「水道橋」、「後楽橋」を巡りました。

特に、「昌平橋」を過ぎてからの景色は最高で、斜めに走る総武線の鉄橋、右側には生活感のある密集した木造住宅、鉄橋の大きな橋げたから覗いた背が高く美しいアーチ状の「聖橋」、向こうに見える緑と近代的なビル群など、地上からでは見ることができない東京の美しい景色を堪能しました。

このあたりは、江戸初期に神田山を切り崩して水路を東に向ける工事が行われ、その難工事を仙台藩が担ったことから「仙台堀」と呼ばれていたとのこと。外堀による江戸城防衛と水害防止の目的だけでなく、

徳川幕府を長期的に維持するために、諸大名に普請を命じて財力を削いだとのガイドさんの説明に、改めて徳川家康の深謀遠慮を感じたところです。

次は、神田川を左に折れて日本橋川に入り、皇居の北側を通り日本橋を経て隅田川に合流するルートです。

「三崎橋」からスタートし、まな板のように反りがない「組板橋」、将軍の鷹狩で雉子を囲っていた「雉子橋」、一ツ橋御門石垣の残る「一ツ橋」、このあたりは今でも江戸時代の石垣や石積が見られ、天下普請の際に他藩と区別するため石垣に家紋等を刻印したそうです。

さらに、将軍が寛永寺への参詣に使っていた「神田橋」、江戸城石材の荷揚作業を鎌倉の人達が担当した「鎌倉橋」、盤の皿より壊れにくい石の磐にした「常磐橋」を過ぎると、いよいよ五街道の起点となる「花のお江戸の日本橋」です。2つのアーチで形成された石造で、欄干に飾り街灯や色々なブロンズ像が配置されるなど、さすがに日本を代表する優雅で重厚な橋でしたが、日本橋川の全体を覆う高速道路が空や光を遮っているのは、やはり残念でした。

その後、昭和通りの「江戸橋」、証券取引所や兜神社がある「鍛橋」、茅職人が住んでいた「茅場橋」、鉄橋のような「豊海橋」を経て隅田川へ合流です。

広々とした隅田川を北へ上り、綱吉50歳の永代祝いに架けられた「永代橋」、高速道と一般道との2階建の「隅田川大橋」、ドイツのつり橋がモデルの女性的な「清洲橋」を経て、3つ目は江東区にある小名木川



を西の荒川方面に下るルートです。

小名木川は、旧中川から隅田川を結ぶ人工的に造られた運河で、江戸に塩などの物資を運搬する目的に、家康が小名木四郎兵衛に工事を命じたとのこと。芭蕉庵のある「万年橋」からスタートし、水害を防ぐ「新小名木川水門」、桜並木が続く「高橋」、三つ目通りの「大富橋」などを経て、「扇橋閘門」に到着です。



この閘門より東側一帯は、昭和初期まで工場地域として膨大な地下水を汲み上げたことにより、大幅な地盤沈下が発生したため、昭和40年代に汲み上げを禁止し、2つの閘門（もう一つは「荒川ロックゲート」）を設置して隅田川や荒川より水位を低く設定されているとのこと。満潮時には最大3メートルの水位差が発生し、その水位差の中で船の往来を可能にするために「パナマ運河」のように水位調整を行っています。私たちの船も、①前ゲートが閉まっている閘門室へ入

る、②後ゲートが閉まる、③係員がバブルで水を抜き水位を下げる、④前ゲートが開き水位の低い川に出る、という迫力あるミニパナマ運河を体験（無料）しました。

その後、小名木川をユーターンして隅田川へ戻って北上。関東大震災等で多くがこの橋に助けられ“人助け橋”と呼ばれる「新大橋」、防潮堤に錦絵や子供の絵が並ぶ“隅田川テラスギャラリー”が見られる「両国橋」、幕府の米蔵があった「蔵前橋」、馬頭観音を祭る駒形堂がある「駒形橋」などを巡り、東京スカイツリーのビューポイントの「言問橋」で折り返し、終点の浅草橋へ戻ってきました。残念ながら東京スカイツリーは霞がかかって見ることができませんでしたが、様々な構造・デザイン・色など、個性的で大きく美しい橋が競うように次々に現れる隅田川を堪能することができました。

以上、4つの川と約60の橋を巡る2時間30分の川船旅でしたが、東京の中心を走る川や水路、個性的で美しい沢山の橋、昔の面影を残す石垣や緑、立ち並ぶ高層ビル群など、地上では見ることができない川面からの様々な景色の組み合わせに感動するとともに、川や橋がヒト・モノ・文化・歴史を繋ぐ大きな役割を担ってきたことを改めて感じたところです。

水道橋から日本橋を経由して永代橋付近で隅田川に合流する「日本橋川」は、残念ながら全体が高速道路で覆われ、暗くて重苦しい雰囲気となっています。この高速道路は、昭和39年の東京オリンピック開催を機に造られたとのことですが、今度は56年振りに開催される7年後の東京オリンピックが高速道路の移設や地中化のキッカケとなり、きれいな水・青空と光と風が蘇る「水の都:東京」として再生して欲しいものです。

千葉シティガイドツアーに参加して

日比谷同友会サービス委員会 林 博道

平成25年10月31日（木）午前10時、JR千葉駅東口のビッグツリー前に日比谷同友会会員12名が集い、千葉市観光協会ちばシティガイド広瀬正一さんのユーモアたっぷりのご案内のもと、素晴らしい好天に恵まれて「千葉（せんよう）・千年の歴史を訪ねて」と題する約3時間の歴史散歩に参加したので、以下に行程に沿って主な内容をご紹介します。

1. JR千葉駅：東京オリンピックとの因縁!?

現在の駅は1963年に完成し駅前が大きく整備されたが、丁度1964年の東京オリンピック前の時期だった。現在駅舎・駅ビルは50年経っていて大々的な建て替え中だ。その完成は2017年の予定なので、奇遇にも2020年東京オリンピックの直前になるとは面白い。近くには「タウンライナー」と愛称される懸垂式モノレールの駅も隣接しているが、世界一の営業距離（15.2km）でギネス登録されている。



2. 千葉中央公園:防人の歌（万葉集）の句碑

千葉の地名の由来は、「多くの葉が繁茂する」という意で、この地名が最も古く記録に残っているのが万葉集（巻二十）の一首にある。

「千葉の野の、兎手柏（このてかしわ）の、ほほまれど、あやに愛（かな）しみ、置きて誰（た）が来ぬ」（千葉の野の兎手柏の花のつぼみのように、初々しくてかわいいけれど、とてもいとおいしいので、何もせずに遠くここまでやってきました。）下総国千葉郡（ちばのこほり。今の千葉市あたり）の大田部足人（おおたべのたるひと）という人が755年（天平勝宝7年）2月、防人として筑紫に派遣されて詠んだ歌だそうで、好きだった女性に手も触れずに旅立った感情が現代の私たちにも共鳴できる。句碑は千葉中央公園にひっそりとあって見過ごしがちな場所にあるが、千葉の古い歴史を感じる。「ちば」を万葉仮名では「知波」と表記されている。



3. 千葉神社：千葉氏の守り神

通称「妙見さま」と親しまれている北辰妙見尊皇星王を主祭神とする神社で、もともとは千葉氏の守護神の真言宗のお寺だったが、明治になって神仏分離で神社になった。毎夏の8月16日から8月22日までの7日間行われる妙見大祭は、1127年（大治2年）から886年間も一度も途切れることなく続いている由緒のあるお祭りだ。なお、神社に入る鳥居の左右一対の獅子児鍛錬像は昭和4年に昭和天皇即位の御大礼祈念で建立されたもので、獅子が我が子を千尋の谷に突き落とし鍛錬したとの故事を題材としたリアルな出来映えの像に思わずじっと魅入ってしまった。



4. 千葉市美術館:公共建物百選に選ばれた美しい建物

この建物は、1927年（昭和2年）建築された川崎銀行千葉支店として建設されたものを鞘堂方式で保存再生した上で新施設が覆うように建てられている。美術館とともに中央区役所も入居しているが、公共建物百選に選ばれている建物だとは知らなかった。確かにその美しい外観や内装には魅了される。



5. 亥鼻城址：千葉氏の居城跡

源頼朝が石橋山の合戦で敗れ安房に逃れたのを助けた千葉常胤で有名な千葉氏の居城跡。平安時代末期から室町時代後期までであったとされる亥鼻城の跡だが、現在は千葉市立郷土博物館となっている。千葉氏は秀吉の小田原攻めの際には北条氏側に味方したためお家断絶になったということもあってか、お城は小田原城がモデルとのこと。このような形のお城が実際あった訳ではない。千葉は江戸時代には城下町ではなく、佐倉藩の積み出し港だったのだ。



6. 千葉教会：明治の香り

1879年（明治12年）創立されたプロテスタント教会で、この教会堂は1895年（明治28年）のドイツ人リヒャルド・ゼールの設計で木造平屋建の洋風建物。戦災にも遭わず現在もまだ現役として使用されている全国でも貴重な118年の風雪に耐えた明治建築だ。基礎は煉瓦と石造りだそうだが、目に見える壁や屋根の作り方には木造の心地よさを感じる。



7. 羽衣の松：三保の松原とは違う千葉の伝説

千葉県庁前の羽衣公園に羽衣の松という松の木がある。解説板には千葉氏ゆかりの伝説があると記されている。それによると、昔この辺りは、「池田の池」という美しい池があって、千葉（せんよう）の蓮が咲いて、多くの見物客で賑わっていたそうだ。夜半に天女が舞い降り、着ていた羽衣を松の枝に掛けて蓮を眺めていた。亥鼻城主の平常将が家来に命じて羽衣を隠させ、帰ることの出来ない天女が常将の妻となって、男の子が生まれたという。これが京に伝わり、感銘を受けた天皇が、千葉の蓮花にちなみ「千葉」の名を常将に授けたことから、千葉氏が創氏されたのだとの伝説だ。千葉氏の子孫は天女の血が入っているのかと思うと凄い話だ。



今回の千葉の歴史散歩の終点は、この羽衣の松であったが、多くの参加者は県庁ビルの食堂で昼食をとり、楽しかった歴史散歩を振り返って談笑し、その後全員無事に家路に着いた。では、この辺で紙幅も尽きたので終わりとさせていただきます。

皆でラグビー観戦

日本ラグビーフットボール協会 トップリーグ対抗戦

第一試合 NTTコム VS トヨタ自動車 第二試合 NTTドコモ VS NEC

日比谷同友会サービス委員会 北島 浩司

9月28日(土)日比谷同友会(サービス委員会)主催
トップリーグラグビー対抗戦、NTTコム VS ト
ヨタ自動車、NTTドコモ VS NECの2試合をラグ
ビーのメッカであります秩父宮ラグビー場にて観戦い
たしました。

当日は夕刻から霧雨が降ったり止んだり心配しま
したが、KickOff時には雨も止み、初秋の涼風が心地
よい中、日比谷同友会 事務局長を始め会員9名の皆
様に参加していただき熱のこもった応援をして頂き、
NTTコム及びNTTドコモの熱戦を観戦いたしました。

試合結果はNTTコムが21対15で昨年に続きトヨタ
自動車に勝利しました。第2試合では残念ながら
NTTドコモがNECに13対41で敗れました。

これまでの試合結果(10月5日現在)はNTTコム
が3勝2敗、NTTドコモが2勝3敗です。(10月5日
にNTTコムとドコモが花園ラグビー場で戦い、コム
が28対17で勝利しております)

今回も秩父宮ラグビー場入り口付近のNTTコムの
入場受付テントには日比谷同友会の旗及び看板を掲げ、
会員の皆様に判りやすいように明示し迷うことなく集
合して頂きました。観戦席もバックスタンドに10数名
分を事前に確保し、皆様と揃って応援することが出来
ました。参加の皆様の中には仲睦まじく奥様同伴で3
組の方にも参加いただきました。

当日はNTTグループ2社が試合するとあって、
NTTコム・ドコモの幹部の皆様に加えて持株から三
浦会長初め幹部の方々、通信建設会社の会長、社長は
じめ沢山の幹部(NTTOB)が観戦に来ておられました。

また、昨年同様、NTT東日本応援団チームも駆け
つけて頂き、チアガールの見事なアクロバット演技、
場内に響き渡るエール等、強力な応援体制で望むこと
が出来ました。

今年のトップリーグには昨年より2チーム多く、16
チームが名を連ねておりますが、昨年同様NTTグル
ープからはNTTコムとNTTドコモの2チームが入って
おります。

両チームの更なる活躍健闘を祈念したいところです。

今年の試合方式(これまでとは変わっておりますの
で、解説します)

2プール/2ステージ制のリーグ戦およびプレーオ

フトーナメント

【1stステージ】

16チームを8チームずつ2プール(A・B)に分け、
各プール1回戦総当たりのリーグ戦を行う。

プールA	プールB
サントリーサンゴリアス(1位)	東芝プレイブルーバス(2位)
神戸製鋼コベルコスティーラーズ(4位)	パナソニックワイルドナイツ(3位)
トヨタ自動車ヴェルブリッツ(5位)	ヤマハ発動機ジュビロ(6位)
NECグリーンロケッツ(8位)	近鉄ライナーズ(7位)
NTTコミュニケーションズシャイニングアークス(9位)	リコーブラックラムズ(10位)
九州電力キューデンヴォルテクス(12位)	キャノンイーグルス(11位)
NTTドコモレッドハリケーンズ(13位)	コカ・コーラウエストレッドスパークス(TC1位)
豊田自動織機シャトルズ(TC1 3位)	クボタスピアーズ(TC1 2位)

※各プールは、前年度の順位をもとに組み分ける。

【2ndステージ】

1stステージの成績によって、16チームを8チーム
ずつ2グループ(A・B)に分け、各グループ1回戦
総当たりのリーグ戦をおこなう。1stステージ各プ
ールの1位~4位4チーム合計8チームをグループA
とし、5位~8位チームをグループBとする。

【プレーオフトーナメント】

2ndステージグループAの1位~4位チームがプ
レーオフトーナメントに進出。4チームによるトーナ
メント戦(計3試合)を行い、トップリーグ優勝チ
ームを決定する。



ムを決定する。

現在、1stステージが進行中ですが、是非ともコム・ドコモ両チームともに2ndステージに駒を進めてもらいたいと願っております。(この記事が掲載される頃には結果が決定していると思われます)

2ndステージは11月からとなりますが、日比谷同友会の皆様には何方でも無料で観戦出来るようにNTTコム・NTTドコモから了承を得ておりますので、

11月以降の2ndステージも奮って観戦されることをお勧めいたします。

追記(12月19日現在)【1stステージ】でNTTコムが5位、ドコモが7位となり、11月30日から【2ndステージ】に入っております。現在のところ、NTTコムが1勝2敗、ドコモが3戦3敗となっております。引き続き皆様の応援をよろしくお願いいたします。

日比谷同友会「ファシリティーズ連絡会」発足式が盛大に開催

ファシリティーズ連絡会事務局

平成25年11月26日(火)、日比谷同友会「ファシリティーズ連絡会」の発足式がグランパークタワーにおいて盛大に開催されました。

これは、日比谷同友会とファシリティーズとの橋渡し役として、新たに「ファシリティーズ連絡会」を立ち上げし、会員拡大やOB活動の充実に取り組んでいくことを目的に設置したものです。

当日は40名を超える方々が出席され、始めに渡辺代表取締役副社長から『会員拡大と併せて、ファシリティーズ独自の施策を実施するなど身近で魅力ある

OB活動を展開していきたい』との挨拶があり、引き続き日比谷同友会鈴木副会長から祝辞、森シニア・アドバイザーの乾杯により発足式が始まりました。

発足式では久しぶりにお会いになる方同士が昔話に花を咲かせ、大いに盛り上がり、最後に沖田取締役相談役の締めで終了しました。

現在、「ファシリティーズ連絡会」は90名の方々で構成され、新たに25名の方々から入会の意思をいただいております。今後も会員拡大に向けて取り組んでいくこととします。



鈴木会長が社会貢献で文部科学大臣表彰を受けられました

社会貢献・表彰委員会

平成25年11月14日、公益社団法人青少年交友協会の理事として尽力されてきた日比谷同友会 鈴木会長が平成25年度社会教育功労者文部科学大臣表彰を受けられました。この公益社団法人青少年交友協会というのは、昭和49年以来、日本のより良い後継者育成を目的として、これからの科学的文明社会に対応する青少年の健全育成のため「野外文化教育」を啓発・実践して

います。

具体的には「野外伝承遊び」、「異年齢集団による共同生活体験学校」、「歩き大会」などやこれにともなう野外文化研究教育に関する指導者の育成、調査研究、青少年教育に関する講演などを全国規模で展開しています。

サービス委員会による今年度見学会の一環として、昨年12月11日に東京23区から出される廃棄物の最終処分場である、中央防波堤外側埋め立て処分場並びに新・海面処分場の見学会を実施しました。

本見学会は、公益財団法人・東京都環境公社が主催するものですが、近年のごみ処理・環境問題に対する関心の高まりから人気のコースの為、参加できる人数に限りがあり、15名での実施となりました。

当日は、午前9時30分に竹芝桟橋から東京都の視察船「新東京丸」(197トン)に乗船。

約1時間30分かけて、レインボーブリッジをくぐり中央防波堤外側埋め立て地並びに今後の処分地として最後に残された新海面処分場付近を通り、昨年開通した東京ゲートブリッジをくぐって新木場・お台場・青海コンテナヤードから竹芝に戻るコースを巡りました。中央防波堤内の埋め立て地であった「海の森」予定地等は2020年の東京オリンピックに際しては各種の競技場となる予定地だそうです。

天候に恵まれ、波も穏やかで普段あまり目に出来ない東京港の海からの光景を東京都港湾局の方による明快的案内をして頂きながらの船旅となりました。

昼食を、私達NTTグループとしても馴染みのあるテレコムセンタービルにて済ませたあと、バスにて先程海上から見上げた東京ゲートブリッジを往復。

引き続き中央防波堤外側に設けられている各ゴミ処理施設を巡るバスツアーとなりました。

以前は家庭や事業所から出るごみをそのまま埋め立てており、良く知られた「夢の島」や「若洲海浜公園」などは生ごみと土を交互にサンドイッチ状に積み上げていたそうで、悪臭やハエ、汚水、ポリ袋散乱等がひどかったのですが、近年は全て都区内19か所の清掃工場で一旦中間処理（焼却）をした後こちらに運んで埋



め立て処分をするようになり、容積が1/20（焼却灰）ないし1/40（スラグにした場合）になったとのことです。

それでも現在護岸工事が始められている「新海面処分場」が東京都としては最後に残された埋め立て可能水面であり、その寿命もあと4、50年しか持たない見込みであり今後の技術改良によりなんとか100年は持たすべく努力が成されているとのことでした。

都内から出される粗大ごみはすべてこちらにある「粗大ごみ破碎処理施設」に集められ、巨大なシュレッダーで破碎された後、分別・焼却されます。

一番厄介な粗大ごみはベッドだそうです、スプリングが機械に絡むため全て手作業での処理となるとのこと、考えさせられました。

不燃ごみも粉碎された後、鉄、アルミの回収がなされたあと、埋め立てられますが、資源回収は十分とは言えないようで私達もさらにしっかりと分別収集に協力したいものです。

以前、そのまま埋められていたごみの山からはメタンガスや浸出汚水が出続けており、メタンガスについてはパイプラインにより集められ、発電に利用されています。近隣埋め立て地から出る浸出汚水についてはすべて調整池を経て集水池に集められ、廃水処理場で一時処理を施したあと、パイプラインで砂町下水再生センタに送られて、飲める程までに処理をした後、東京湾に放出されているとのことでした。

驚いたのは、この汚水処理にかかる経費が、こちらの処分場の経費全体の約半分を占めているということ、環境保全に対する厳しい姿勢が感じとれました。

最後に中防合同庁舎にて、ビデオによるごみ処理全般に対するおさらいをした後東京レポート駅にての



解散となりました。

私達一人一人がこれからも資源の3R (Reduce, Reuse, Recycle)と適切な分別に心がけ、東京23区として唯一

のこの最終処分場の寿命を一年でも伸ばすことに心すべきとの思いを新たにさせられた見学会でした。

NTTの本社が移転しました。

日本電信電話株式会社は、2013年12月24日(火)に本社を現在の東京都千代田区大手町にある「通信ビル」から、千代田区大手町の「大手町ファーストスクエア イーストタワー」へ移転しました。

今回の移転は、大手町二丁目地区第一種市街地再開発事業により、NTTが現在入居する建築物(通信ビル)の建て替えのため、本社所在地を変更するものです。

1. 新本社の概要

住所 東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大手町ファーストスクエア イーストタワー
代表電話番号 03-6838-5111

2. 移転日

2013年12月24日(火)

3. 移転理由

大手町二丁目地区第一種市街地再開発事業により、NTTが現在入居する建築物(通信ビル)の建て替えのため。

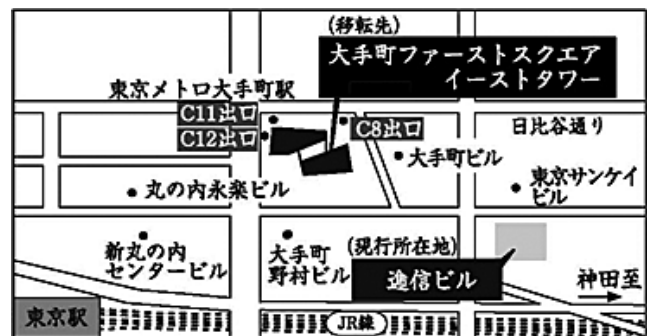
4. 新オフィスの概要

社員の交流を活性化するワークプレイスの構築やクラウドを軸にセキュリティが高度化されたICTの

導入により、新たなワークスタイルを実現します。また、ペーパーレス化の更なる推進やNTTファシリティーズ社が提供する電力見える化システム「エネルギーモニタリングサービス Remoni」等を利用し、エネルギー削減の推進など環境に配慮した取組みを行います。

5. 新本社へのアクセス

東京メトロ 東西線・丸ノ内線・千代田線・半蔵門線、都営地下鉄 三田線
「大手町駅」 C8、C11、C12出口から直結
JR「東京駅」 丸の内北口から徒歩4分



通信ビル



大手町ファーストスクエア イーストタワー

テルウェル東日本が運営する「ぽこころ保育園」のオープンについて

テルウェル東日本は、平成27年4月から始まる保育の新制度を視野に入れ、子育て支援事業への本格参入に向け準備を進めてきましたが、このたび平成25年11月29日、東京都世田谷区に「ぽこころ保育園」をオープンしました。

この施設は、NTT東日本管内で閉鎖された営業窓口や廃止となった社宅等の物件を借り上げて再開発を行う「アセットプランニング（不動産開発）事業」の一環として、旧営業窓口であるNTT成城ビルをリノベーションし開設したものでもあります。

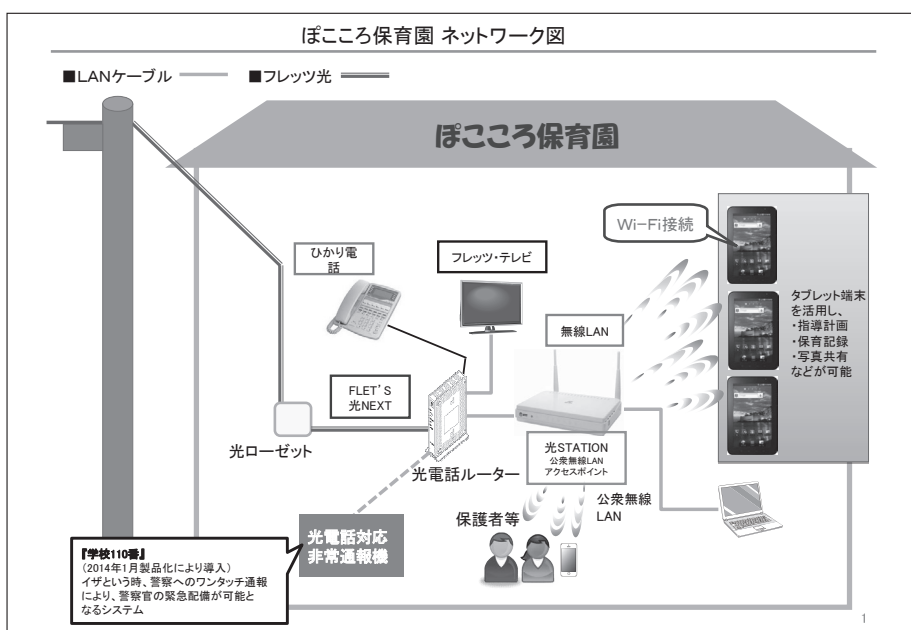
「ぽこころ」は、ぽっと心に火が灯ること。自分から何かを始める時、心に灯る「ぽ」。困っている誰かに手を差し伸べる時に心に灯る「ほ」を大切に、いきる力と思いやりにあふれた子どもを育みたいという想いから名付けました。

定員24名のアットホームな環境の中、「よく遊び（体育）、よく学び（知育）、よく食べ（食育）、元気に挨拶（徳育）」という保育方針に基づき園長をはじめ経験豊かな保育士たちが一丸となり、商店街ツアー、里山保育他、これから様々な保育プログラムを提供していく予定です。

保育室内は、物語や絵で創造力を育めるようたくさんの絵本を用意し、壁の一部に思いおもいの自由な発想でお絵描きができるペイントウォールを設けました。「食育」にも力を入れ、有機・オーガニック調味料や契約農家米を用い、食育アドバイザーの指導を受けた献立によるこだわりの給食を提供しています。このような基本的な保育の要素を大切にする一方、今後のICTを活用した保育の取り組みを見据え、NTT東日本の公衆無線LANである「光ステーション」も導入しています。各クラスにタブレット端末を1台ずつ配備し、Wi-Fi機能を活用し保育所内の自由な場所にて園児の出欠席管理および延長料金等の計算、職員の勤務管理、帳票類管理等を行っています。また、将来的には英語・アート・絵本の読書管理他、保育プログラムにおける各種アプリケーションの導入、更には同環境にある他施設をつないでの交流等も検

討しています。

その他設備の特徴としては、環境に優しいLED照明の使用、衛生対策として光の力で消臭・抗菌効果を発揮する光触媒の活用、セキュリティ強化対策として保育園スタッフの手のひら静脈認証により解錠する電気錠、モニター付きインターフォン、イザという時ポ



タン一押しで警察に通報できる「学校110番」の導入(平成26年1月予定)等が挙げられます。

また、子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、ダンボール素材でできた本棚やソファの使用や、保育室を0歳児と1～2歳児に区分けする等の対策を行うほか、眠る時間の長い0歳児のスペースには床暖房を導入する等、細やかな配慮を施しています。

テルウェル東日本では、今後も保育を必要とする自治体に向け、地域に根ざした子育て支援を検討するとともに、ICTを活用した更なるビジネスの拡大に向け取り組んでいきます。

なお、ぽこころ保育園では更なる施設展開に向け、現在保育スタッフを募集しています。お知り合いに保育士や看護師資格をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。併せて、イベント開催時のボランティアスタッフも募集しています。子どもたちを楽しませる特技をお持ちの方、保育園でのボランティアにご興味がある方は、テルウェル東日本 経営企画部 新規ビジネス推進室(03-3350-7129)までご連絡ください。

ぽこころ保育園の概要

- ・名 称：ぽこころ保育園
- ・所 在 地：東京都世田谷区祖師4-4-16 NTT成城ビル
- ・施設面積：120㎡
- ・最 寄 駅：小田急線 祖師ヶ谷大蔵駅(徒歩10分)
- ・定 員：24名(0歳児6名・1～2歳児18名)
- ・保育時間：月曜日～金曜日 7:30～20:00
- ・保育理念：いきる力と思いやる心を育みます
- ・保育方針：よく遊び(体育)、よく学び(知育)、よく食べ(食育)、元気に挨拶(徳育)
- ・保育目標：①自ら考え、判断し、行動できる子
②創造力豊かに表現できる子
③みとめあい、友達も自分も大切にできる子
④強い体と折れない心を持つ子
⑤楽しく、味わって、感謝して食べられる子
- ・保育所URL：<http://pococoro.jp/>

『おもいやり食堂 健康レシピ』

テルウェル東日本様様が運営するNTTグループの社員食堂において提供している、オリジナルのガイドラインに基づいて季節ごとに旬の食材を使い、従業員の健康に配慮した「ヘルシーメニュー」のレシピをまとめたものです。「こころ」と「からだ」への「おもいやり」がテーマとなっています。

この度、テルウェル東日本様様より、この健康レシピを10名様にプレゼントして頂けることになりました。お申込み方法等については、次のとおりです。

◆お申込み方法◆

官製はがきに次の事項を記載し、日比谷同友会事務局あてに送付願います。

【はがきへの記載事項】

①氏名②住所③電話番号④下記クイズの回答

クイズ：テルウェル東日本が出版したレシピ本

『○○○○○食堂 健康レシピ』

※○○○○○を回答願います。

■応募締切 平成26年2月10日(月) 消印有効

※応募総数を超えた場合は、抽選とさせていただきます。

※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

○なお、「おもいやり食堂 健康レシピ」は、大手書店、ネット等でもお求めになれます。(価格1,200円 税込)



↑ 1月のメニュー
「ホタテのオレンジ蒸し」
「根菜カボナータ添えセット」